「いじめ」について（20241109）

「いじめ」をなくせ→「いじめ」あるのはあたりまえ

「いじめ」はなくせると思う

いじめたことがあるし、いじめられたことがある

魚でも集団になると仲間はずれもある→生きものの本能的なものと関係している

パワハラ→気にいらない、子分にならない、おれの言うことをきかない

いじめの中身、言い方が陰湿になっている

不登校が増加している

暴行、恐喝など犯罪になっている

嫉妬が止められない

「いじめ」は「理性、品格」によって抑制されるか

ある一人の人が標的となっていじめられ、多数は傍観者

いじめをひどくする

男の子が女の子色をつけていると攻撃される

いじめの動機、理由

自分を守るため、強い人についていく

他の人たちと少しでも違ったことをしないようにびくびくしている

発達障害、アダルトチルドレンなど異質のもの、動き

集団に異質の動きやものを排除しようとする

いじめを受けていることを他の人に言えるか言えないかで違う

直接の上下関係ではなく、斜めの関係が必要→相談場所

誤解、優越感、劣等感、嫉妬

少数者が排除される

善意は余計なお世話となる場合がある

最初は些細なもの、行き違い、悪口、口をきいてくれなくなる

仲間からの排除→自発的に集団や社会を維持していくための行動

集団の中に自分の利益だけを追求し周りに迷惑をかけて平気な人がいた

話してやめてもらう→不可の場合

まともに話し合うのをやめる→集団から排除

自分たちの規範や基準に合わない人たちを排除する

上からの権力に頼る

「いじめ」と変わらない→よい「いじめ」と悪い「いじめ」がある

1対1では問題にならない→集団になると問題になる

嫁、姑の問題→家族におけるよそ者、異質排除の問題

村落共同体、ムラが生き残るため協力助け合う

鍵もかける必要はない

自分自身が面白くないから他に向かう

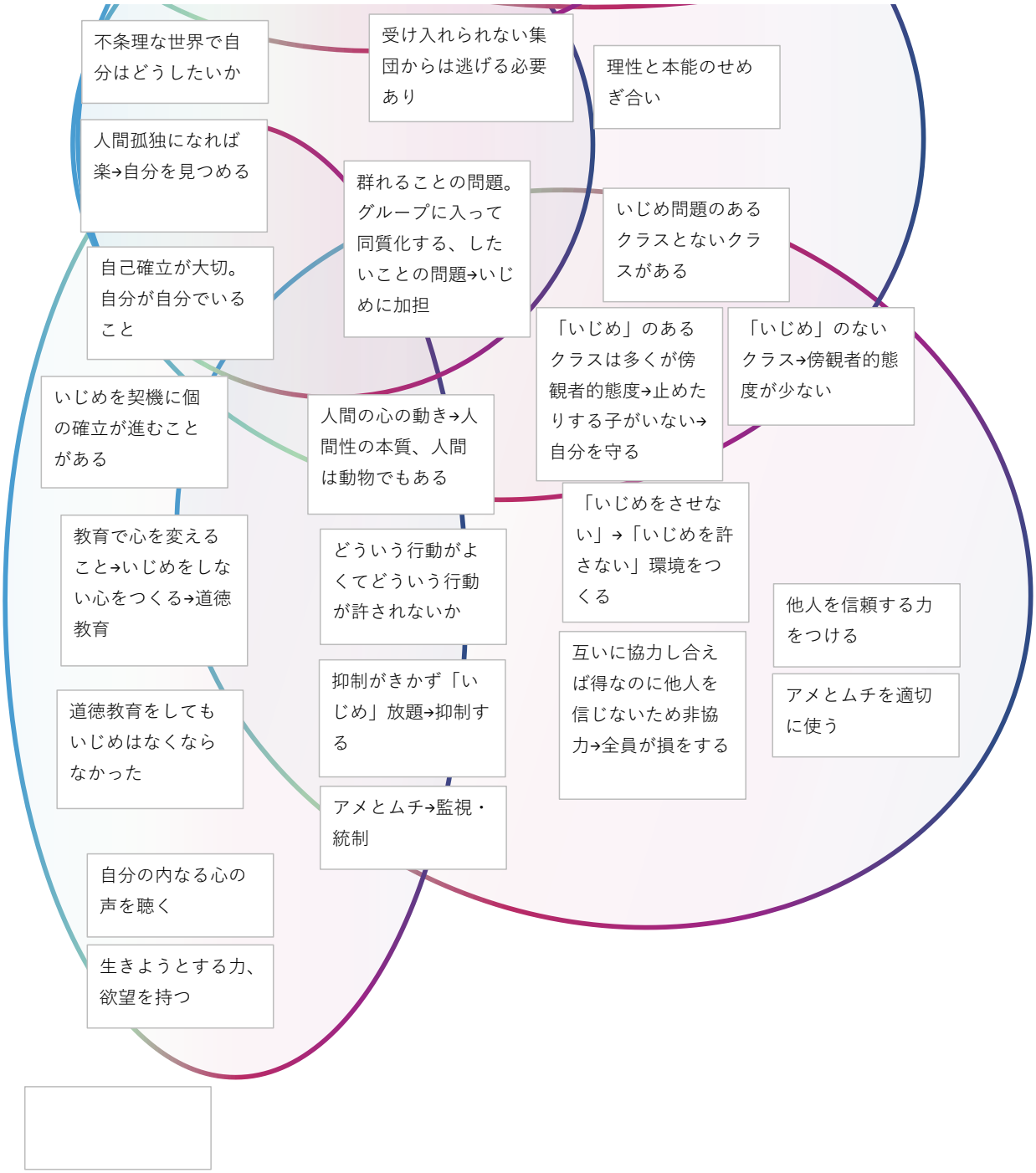
空気を読む、周りを気にする→関係性に敏感

相互監視、相互制裁→ムラ八分

身内ならば安心、よそ者は不安→排除

サディズム、他に優位に立ちたい

監視と制裁、承認をめぐる争い


不条理な世界で自分はどうしたいか
受け入れられない集団からは逃げる必要あり
理性と本能のせめぎ合い
人間孤独になれば楽→自分を見つめる
群れることの問題。グループに入って同質化する、したいことの問題→いじめに加担
いじめ問題のあるクラスとないクラスがある
自己確立が大切。自分が自分でいること
「いじめ」のあるクラスは多くが傍観者的態度→止めたりする子がいない→自分を守る
「いじめ」のないクラス→傍観者的態度が少ない
いじめを契機に個の確立が進むことがある
人間の心の動き→人間性の本質、人間は動物でもある
「いじめをさせない」→「いじめを許さない」環境をつくる
教育で心を変えること→いじめをしない心をつくる→道徳教育
どういう行動がよくてどういう行動が許されないか
他人を信頼する力をつける
互いに協力し合えば得なのに他人を信じないため非協力→全員が損をする
抑制がきかず「いじめ」放題→抑制する
アメとムチを適切に使う
道徳教育をしてもいじめはなくならなかった
アメとムチ→監視・統制
自分の内なる心の声を聴く
生きようとする力、欲望を持つ